

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃高等学校

学校番号

39

1 学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材の育成
2 現状の分析	<p>○ 入学後、生活や学習等の取り組みに対し、改善が見られつつある。</p> <p>○ 挨拶をしたり、時間を守ったり、将来の目標を設定したりすることのできる生徒が増えてきた。</p> <p>▲ まだまだ基礎学力が定着していない生徒がおり、義務教育段階の学習内容の復習や学び直しを指導する必要がある。</p> <p>▲ 基本的な生活習慣や規範意識が十分に確立していない生徒がいる。</p> <p>▲ 自分自身の良さや課題を客観的に捉えることや社会に出て働くための人間関係づくりが苦手な生徒や進路展望を持たない生徒がいる。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・基本的な生活習慣の確立と道徳心の育成 ・進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇学習指導・教科指導の充実</p> <p>◇生活指導・特別活動指導の充実</p> <p>◇コミュニケーション能力を育成するとともに、キャリア教育の充実</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導・教科 指導の充実	①「評価の可視化」と「加点法」 による授業の実践を通じて、「 授業のユニバーサルデザイン 化」を行う。	①生徒及び教員による授業評 価・(肯定的評価70%)	①各教科・科目における『授業評価カー ド』を活用した授業実践を通して、「 評価の可視化」と「授業での加点評価 」を行い、生徒自身による授業への取 組姿勢の確認や授業時における基本 事項のチェック並びに、授業での意見 提示や加点に見合う発言内容等の確 認と評価に役立てた。 また、各教員が生徒による授業評価と 教員自身の授業評価を分析し、授業の 改善・改良に取り組んだ。 達成状況は、肯定的評価が90%以上 であった。	B	○意欲的に授業に取り組む 生徒が増え、授業に参加 する姿勢や授業規律を遵 守する態度の確立に繋が った。 ▲『授業評価カード』を活 用した授業実践からカー ドが無くとも積極的かつ 能動的に授業参加できる 学習支援法を研究しつ つさらなる「授業のユニバ ーサルデザイン化」を行 う。	B
	②「地域づくり類型」の授業にお いて、御嵩町や地域の機関等と 連携・協力し授業を展開する。 また、御嵩町の援助による防災 士の取得の推進を行う。	②「地域づくり類型」のアンケ ート・(生徒の満足度70 %) 防災士取得・(取得率10 0%)	②御嵩町との連携を十分に行い、「ふる さと教育」実践校として、岐阜県ふる さと教育表彰奨励賞を受賞した。生徒 の授業評価による満足度は、100% であった。 また、防災士取得率については、73 %であった。	A	○地域の方の協力による授 業を通して、御嵩町をい かに魅力ある町にするか という「学習報告会」を 生徒が主体となって行う ことができた。	

	③全校生徒の約23%を占める外国人生徒に対して「日本語」の授業を実施し、学習支援を行う。	③日本語能力を測る検定試験・(各個人が前年度より上級を取得)	③日本語能力検定試験の結果(受験者の合格率60%)	B	▲検定等の取得に対し、生徒が主体的に取り組むように、支援を強化し、より積極的に働きかける。
生活指導・特別活動指導の充実	①「あじみのできる学校」をキャッチフレーズに挨拶の励行、時間を守る行動、身なりを正すことを大切にするとともに、基本的な生活習慣の確立に向けた指導・助言を行う。	①学校評価による確認・(肯定的評価70%)	①生徒指導と特別活動におけるアンケートにおける肯定的評価は、81%であった。	A	○挨拶のできる生徒や授業に遅れないように努力する生徒、ボランティア活動に積極的に参加する生徒が増加している。 ▲一部の生徒の遅刻を減らす努力を、根気強く行うとともに、全職員の共通理解のもと徹底した生活指導を継続する。
	②全職員が共通理解のもと、「見逃さない同じ指導」を行う。	②生徒対象アンケートと校門指導を行う保護者への聴取・(肯定的評価の有無)	②生徒対象のアンケート結果は66%が肯定的であった。また、保護者の意見としては90%以上が学校の指導に対し肯定的であった。	B	
	③部活動・ボランティア活動を活性化し、活気と思いやりのこころを育成する。	③ボランティア参加人数・(のべ300人以上の参加)	③のべ614名が、ボランティア活動で地域に貢献することができた。	A	
コミュニケーション能力の育成とキャリア教育の充実	①演劇ワークショップや、キャリア教育プログラムにより、コミュニケーション能力を育成し、望ましい人間関係を構築する。	①講師及び見学者への聴取・(肯定的評価の有無)	①肯定的評価が非常に多く、生徒のコミュニケーション能力の育成に効果があると評価が非常に高かった。学校評価では、88%が肯定的評価であった。	A	○キャリア教育優良校として「文部科学大臣表彰を受賞」とともに進路意識を具体的にイメージすることのできる生徒が徐々に増えてきている。 ○生徒のコミュニケーション能力の育成に役立っている。 ▲各年次の継続性や繋がり方を研究しつつ、外部機関と十分事業内容を検討することで、更なる生徒のスキルアップに反映する。
	②進路ガイダンス等により、進路目標を具体化し、望ましい勤労観・職業観を育成する。	②学校評価による確認・(肯定的評価70%)	②肯定的評価が82%であった。	A	
	③御嵩町役場や、国際たくみアカデミー等との連携による、外部人材の活用により、進路目標実現に向けての生徒たちのスキル向上を目指す。	③活用回数10回	③活用回数14回	A	

II 学校関係者評価 実施年月日：平成30年1月23日

- ・キャリア教育がしっかり実を結びつつあると感じている。
- ・高校生の防災士講座への参加は岐阜県において、先進的な取り組みである。
- ・御嵩町との連携を通じて地元に残る人材の育成が図られている。
- ・外国人生徒や不登校の生徒の受け皿として貴重な学校となっている。
- ・全体によくなっているが、学校に関心のない人に本校のやっていることを知らせる方法として、メジャーな広報誌への働きかけを強化するとよい。

12 来年度に向けての改善方策案

- ・生徒のコミュニケーション能力の育成に関わり、1年次、2年次、3年次の授業やキャリア教育プログラム等においてアクティブ・ラーニングを導入・推進する。
- ・「あじみができる東濃高校」(挨拶の励行、時間を守る、身なりを正すこと)を教育指導の重点と掲げ、平成30年度も基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指す。
- ・外国人生徒、発達障がい等を有する生徒等の指導を充実させるために、外国人生徒連絡会等で定期的に情報交換を行い、個別の合理的配慮を十分加味した生徒指導を行う。

